

朝鮮通信使と徳川家康の会見
を記念した茶会
〓 静岡市清水区の清見寺



日韓交流の歴史に
思いをはせて一服
静岡で通信使記念茶会
1607年6月20日に徳
川家康と朝鮮通信使が駿府
城で会見したことを記念し
20日、日韓友好を図る「朝
鮮通信使記念茶会」が通信
使にゆかりある静岡市清水
区の清見寺で開かれた。
茶道裏千家前家元の千玄
室大宗匠(100)と川勝平太知

①1607年6月20日に徳川家康と朝鮮通信使が駿府城で会見したことが記事で述べられている。家康の会見の目的にはどのようなことが考えられるか。次の語句を必ず使って、簡単に説明しなさい。

< 豊臣政権 >

②日韓友好を図る「朝鮮通信使記念茶会」が静岡市清水区の清見寺で開かれた理由を、記事を参考に説明しなさい。

③今回、清見寺で開かれた茶会には、韓国の忠清南道の知事が招かれた。忠清南道と日本にはどのような歴史的なつながりがあるか。記事を参考に説明しなさい。

事(74)が亭主を務め、韓国の金泰欽(キム・テフム)忠清南道知事(60)、金玉彩(キム・オクチェ)駐横浜総領事(63)と、徳川宗家19代目当主徳川家広さん(58)を招いた。静岡産の茶を使った一服を楽しみながら、豊臣政権による「唐入り」で損なわれた両国関係の改善を狙う徳川家康と通信使の平和への思いや朝鮮半島

と茶道の関わりなど、両国が交流を重ねてきた歴史に思いをはせた。
茶会後には清見寺が所蔵する通信使の書き残した詩などを観覧した。茶会を終えた金知事は、忠清南道には日本と国交の深かった百済の都がかつて置かれていたとして「忠清南道と静岡県で日韓友好の先頭に立っていききたい」と話した。

年 組 名前

解答例

朝鮮通信使と徳川家康の会見
を記念した茶会
〓 静岡市清水区の清見寺



1607年6月20日に徳川家康と朝鮮通信使が駿府城で会見したことを記念し20日、日韓友好を図る「朝鮮通信使記念茶会」が通信使にゆかりある静岡市清水区の清見寺で開かれた。
茶道裏千家前家元の千玄室大宗匠(100)と川勝平太知

静岡で通信使記念茶会

日韓交流の歴史に
思いをはせて一服

- ①1607年6月20日に徳川家康と朝鮮通信使が駿府城で会見したことが記事で述べられている。家康の会見の目的にはどのようなことが考えられるか。次の語句を必ず使って、簡単に説明しなさい。

< 豊臣政権 >

例 豊臣政権による「唐入り」で損なわれた日本と朝鮮との関係改善を狙うこと。

- ②日韓友好を図る「朝鮮通信使記念茶会」が静岡市清水区の清見寺で開かれた理由を、記事を参考に説明しなさい。

例 清見寺には通信使の書き残した詩などがあり、通信使にゆかりのある場所であったから。

- ③今回、清見寺で開かれた茶会には、韓国の忠清南道の知事が招かれた。忠清南道と日本にはどのような歴史的なつながりがあるか。記事を参考に説明しなさい。

例 忠清南道には日本と国交の深かった百済の都がかつて置かれていたこと。

事(74)が亭主を務め、韓国の金泰欽(キム・テフム)忠清南道知事(60)、金玉彩(キム・オクチェ)駐横浜総領事(63)と、徳川宗家19代目当主徳川家広さん(58)を招いた。静岡産の茶を使った一服を楽しみながら、豊臣政権による「唐入り」で損なわれた両国関係の改善を狙う徳川家康と通信使の平和への思いや朝鮮半島

と茶道の関わりなど、両国が交流を重ねてきた歴史に思いをはせた。
茶会後には清見寺が所蔵する通信使の書き残した詩などを観覧した。茶会を終えた金知事は、忠清南道には日本と国交の深かった百済の都がかつて置かれていたとして「忠清南道と静岡県で日韓友好の先頭に立っていききたい」と話した。

年 組 名前